

地域を元気にする、マチおこし研究所の活動

活動地域（北海道安平町）

男性のプロフィール

氏名：及川 秀一郎さん

年齢層：中高年層（40～50 歳代）

活動概要：マチおこし研究所に所属し、メンバーの一人として川の環境保全活動などの地域を元気にするための活動を 15 年以上にわたり実施。

活動開始のきっかけ

岩手県一関市の「五区楽の里」との出会いが、「まちづくり」への意識を変えた

役場職員である私は、人事異動で企画担当となり、事務局的な立場で、半官半民の団体であった「マチおこし研究所（以下、「マチ研」という）」に入会しました。これがマチ研と関わるようになった最初のきっかけであり、当時はあくまで仕事の一環として始めたものでした。

しかし、平成 9 年に道外視察としてマチ研が訪問した岩手県一関市の五区楽の里（山間部の小さな部落）で、「五区楽の里づくり」の団体と交流し、その地域の人々の「温かいもてなしの心」に感動したことが、現在も活動をしている本当のきっかけであったと思います。通常の視察は、活動内容の説明や質疑応答、現地視察などで構成されるのが一般的であると思いますが、五区楽の里では、通常の内容に加えて、野点での雑談や地域総出での一関名物の餅の振る舞いなどが用意され、我々は大歓迎を受けました。そのとき、温かいもてなしの心こそが、「まちづくり」や「人づくり」の原点であると確信し、私自身のまちづくり活動に対する考え方や価値観、意識を大きく変えたのです。

それを契機に、職員の立場で参加していたマチ研の活動に、町民の立場として参加するようになり、マチ研の活動に、より一層熱心に取り組むようになりました。さらに、自分が住んでいる町内会の役員や P T A 会長などの要請があると、できる範囲で引き受けるようになりました。

活動の内容

地域を元気にするために、川の環境保全活動などを実践

マチ研の活動の目的は、安平町が元気になる活動をすることであり、これまで多岐にわたる事業に取り組んできました。

町内を流れる安平川に関する事業として、河川の清掃活動、植栽活動、魚卵放流、稚魚放流、安平川フォーラム（学社融合事業）などを行っています。

このほか、道内外視察によるまちづくり団体との交流事業や炭焼き事業、街路樹の実を使ったジャムづくり（実験）、町内の団体との共催による田舎盆踊り、マチ研情報紙「パワフル安平」の町民への全戸配布、樽たるハウス製作（町民が集う場所づくり）などを実践してきました。

活動は、休日以外に平日に行うこともあります。平日の場合、現職のある所員は参加が難しいのですが、現役を退いた方々を中心に集まれる人たちだけで、無理のない範囲で活動しています。



安平川フォーラム



魚卵放流

子どもの成長にもつながっていることを実感したとき

地域や学校の活動を通じて多くの人々と知り合いになることを生きがいに、今日まで活動を続けてきました。「〇〇の活動」としてやっていることが、時間が経つと、全く関係ないことにつながっていたり、自分の子どもの成長につながっていたりすることがあります。そんなとき、活動して良かったと感じます。

振り返ると、もう15年以上も活動を続けていますが、「継続は力なり」そのものであり、私が数年前からはまっている「マラソン」の醍醐味にも近いのかもしれませんが。周囲から見れば、時間と労力を使って大変そうに見えるかもしれませんが、やっている本人は「好きでやっている」、「健康のためにやっている」のですから、ストレスは感じません。楽しみながら活動することが、継続の秘訣であると思います。

周囲との関わり

家族、職場の理解と支援を得ながら、幅広いメンバーとともに活動

家族、特に3人の子どもも一緒にマチ研の事業に参加して、一緒に楽しんで活動してきました。

マチ研には、商店経営者、元郵便局長、JR社員、農業者、主婦、PTA繋がりの友人など、多種多様の経歴の持ち主が集まっており、お互いに助け合いながら、そして楽しみながら活動を継続しています。また、職場関係では、マチ研の活動に賛同した多くの職員が時間を作って、できる範囲で、ボランティアとして参加してくれていますし、教育委員会との協働事業となった安平川フォーラム（学社融合事業）では、私は一町民として参加し、行政とのパイプ役を果たせていると思っています。安平町からは、財政的な支援として年間40万円ほどの交付金を受け、活動資金に充てています。

直面した課題と解決方法

新規メンバーをもっと増やしたい

マチ研の定例会を基本的に毎月1回行っています。所長、事務局長2人が議案を用意し、参加者全員が発言します。参加者が何かを遠慮することはありませんし、発言しなくても特に構わないので、今のメンバーは居心地が良いと思います。言い合える仲間であり、心を許せる友人に近い関係ができています。

マチ研に新たに加わる人が少ないことは大きな課題となっています。しかし、平成18年の町の合併以降、合併した地区の方が数名加わったり、以前、PTAと一緒に活動していた方が数年転勤して戻ってから所員に加わったりと、マチ研の良好な人間関係や「義務ではなく、ゆるやかに参加して良い」という雰囲気の魅力で、新たにメンバーになる人も徐々に増えています。新しい、そして強力な個性あるメンバーの加入は、マチ研の新たな事業展開（樽ハウス事業など）につながっています。

これからの展望

背伸びせず、楽しみながら、マチ研の活動を継続

活動したことによる効果は大きく、自分自身にとっては、仕事面でも私的な場面でもそれまでの人脈が何倍にも広がりました。道内外の多くの団体と交流することを通じて、数多くの刺激を受け、精神的にも成長ができていますと感じますし、新たな仕事に挑戦する意欲も出てきました。

今後は、何よりも「継続は力」ですので、未長く、背伸びせずに楽しんで活動していきたいと考えています。特に、興味のある「持続可能な地域づくり」や「循環型社会の仕組みづくり」などにマチ研メンバーとして挑戦していきたいと思っています。